

## 第二回 LCET 実践編①

# PICTATION ~絵を見て瞬間英作文~

## 活動報告

担当：沼田 彩花

### まずはご挨拶

記念すべき LCET 第二回。僭越ながら、今回実践編のコーナーを担当させていただきました沼田です！こんにちは！！

今回はこのような貴重な機会いただきまして、まだまだ改善の余地はあるものの、自分としてはかなり充実した経験をさせていただきました。正直、他の皆様に比べて圧倒的に経験値の足りない私に、現場での実現可能性が高いアクティビティなど考えられるのだろうか…などと様々な不安を抱えながら取り組み始めたのですが(笑)、参加者の皆様が積極的に取り組んでくれたおかげで、今回は有意義な時間を創出することが出来たのではないかと自負しております！ありがとうございました！

という個人的な感想はさておいて…

今回私が持ち込んだのは、Pictationと題しまして、イラスト描写とピクチャーディクテーションの複合型アクティビティです。(要素を盛り込みすぎて一言でまとめきれない(笑))

ざっくりと言えば、片方が絵を見てその状況を言葉で説明する→もう片方はパートナーの説明だけで絵を再現する、といった感じです。後ほど詳説します！

しかも、それをどうしても無理矢理グループでの活動に持ち込みみたく、(中身の少ない)頭をひねってひねつて、最終形態にたどり着きました。

### Pictation - 絵を見て瞬間英作文 -

- ①2つのグループに分かれる
- ②それぞれのグループに違う絵(か写真)を渡す  
<制限時間は3分>
- ③まずは一人で英作文(その絵を描写する文を2~3考える)
- ④グループ内で共有、これだと思う文を5つピックアップする  
<制限時間は5分>
- ⑤グループ内で共有、これだと思う文を5つピックアップする  
必要であれば新しいものを追加する  
注意：相手のチームができる限り忠実に再現できるよう、  
シルクかつ確かなものを選択すること！
- ⑥その5文を相手チームに伝え、相手チームはそれを絵で再現する
- ⑦その5文を相手チームに伝え、相手チームはそれを絵で再現する
- ⑧答えあわせ＆フィードバック
- ⑨どんな情報が欠けていたか、誤解なく伝わっていたかを話し合う

### アクティビティのねらい

この活動の主たる狙いは、①「伝え方を学ぶ事」そして②「他の関わりの中で学ぶこと」でした。

私自身、昨年から中学生の英会話の授業を主に担当させていただいているのですが、その中ではいつも「英語を学ぶこと」よりもむしろ、その先にある「伝えること」を生徒の学びとして意識することにしています。

そのため今回の活動にもそのポリシー(?)を持ち込み(笑)、一応は「英作文」と称してはいるものの、実際ライティングやリスニング等の言語能力を鍛える機能という観点から

What's the point?

言えば、参加者の皆様の需要に見合っていなかったかもしれません。(笑)

この活動を、ご自身と生徒と学校のニーズに合わせて、それぞれご活用していただければ幸いです！

## ⊕ 活動の流れ

少し脱線してしまいましたが Pictation の活動内容に話を戻し…

このコーナーは実践編ということで、理論云々の細かい説明は

後回しにして、まずは沼田の(ごく拙い)口頭説明のもと、皆さんには実際に Pictation を体験していただきました。

これも後ほど詳説しますが、今回は「他との関わりの中での学び」も狙いの一つであるため、活動は 6 人を 3 人 × 2 チームに分けて行いました。(教室で活用していただく場合は、ペアでも、逆に 5~6 人のグループでも実践は可能だと思います！)

それぞれのチームに白い紙 2 枚と A4 に出力した写真(今回は英検 2 次試験、写真描写問題用の画像を使用)、そして参加者全員に付箋を 3 枚ずつ配布し、ゲームスタートです。ちなみに、今回使用した小道具は右の通り。

全てご自宅か、または 100 円均一で手に入ります！

あとは前ページに記載したスライド通り、まずは各自で写真を描写する文を作ってもらいます。今回は 3 分間で一人 2 文作成してもらいました。設定レベルは中学生。(実際は 1 分半くらいで終了してました(笑))



### 用意したもの

- ✓ 写真(グループ分)  
なるべく情報量が多いものを！
- ✓ 付箋(大量)  
英語 1 文書けるくらい
- ✓ 白い紙 2 枚(グループ分)
- ✓ タイマー



**統合**

Three ladies are walking on the street

さて、全員の準備が出来たら、今度はチーム内でそれを共有し、集まった 6 文を吟味しつつ、「これだ」と思う 3 文をチーム内で決めてもらいます。共通している内容はキープしたり、逆に相手を惑わせるような内容は外したり、意見を交換し合いながら「情報を取捨選択」してもらいます。制限時間は 3 分。後ほどそれを相手チームと共有する旨を伝え、なるべく相手にとってわかりやすいよう、簡潔で的確な描写にしてもらいます。必要であれば、新しい文を書き換えたりしても構いません。

時間がきたら、それぞれのチームでまとめた「情報を開示」してもらいます。この際、実際の写真はまだ公開しません。今回はチームで推敲した 3 文を付箋に書き直し、それを共有しましたが、ここは口頭での発表のみにして、リスニング / スピーキングの練習に絡めても良いと思います！ 伝える順番もポイントです！！！

全体で情報を共有したら、またチームに戻り、今度は相手の言葉を picture dictation(絵で書いて再現) してもらいます。時間は大体 5 分。両者が揃ったところで答えあわせです。



## ■ 答えあわせとフィードバック



まずは実際の写真を披露。そして、各チームで描いた絵を披露します。ちょっとした笑いが起きたり、かなり忠実に再現できていると歓声が湧きあがったり等、盛り上がりを見せるポイントでもあります。それぞれが答えをシェアした後は、お互い「こんな情報があればよかった」「この表現がわかりにくかった」など、感想を述べ合います。自分たちの伝え方や、情報の選び方は相手にどう伝わっていたのか。そこに「気づき」を得るのが、このアクティビティの一つのゴールです。

今回は意見をシェアして実践は終了となりましたが、この感想をチームに持ち帰り、各々「完成版」を作成させる課題を与えても良いと思います。中3～高校生レベルであれば、そこから物語を作らせたり、「次に起こりそうなこと」や「この前に会ったこと」をテーマに1パラグラフ書かせてみるのも面白いかもしれないな、と思いました。

## ■ ポイントの解説

一連の流れを体験していただいたところで、改めて流れを復習、そしてこのアクティビティの狙いについて説明させていただきました。情報伝達の訓練ではありますが、一応カテゴリーとしては英作文の練習として設定しています。「簡潔に」とお願いし、制限時間を設定したのは、完璧な文でなくてもポイントさえ押さえていれば相手には伝わるし、その方がわかりやすいことを伝えたかったです。

ここに、「伝え方の指導」の要素を盛り込んでみました。（うまく伝わっていたでしょうか…？（笑））そしてもう一つ、「他との関わりの中で学ぶこと」。今回は、ちょっとしたアクティブラーニングの要素を取り入れたく、グループでの作業を多めに取り入れました。自分が必要だと思った情報は、相手も重要視していた。逆に、相手の頭にはなかった→不需要だったかも？ 相手の意見の方がよかったですかも？ 言わなくても伝わると思っていたことは、案外伝え合っていなかつた！… 自分一人で考えたことを周りとシェアし合うことで、一人では考えつかなかつたことに気付くこと、そしてそこからより良いものを生み出していくこと、その楽しさや大切さを、少しでも伝えられるような活動ができれば良いなと思っていました。

### ねらい

<writing>

- 必要な情報をシンプルかつ的確に！
- 瞬間的に文を組み立てる

<group work>

- 情報の共有と取捨選択
- アイディアを統合・新しくより良いものの創出
- フィードバック → information gapへの気付き
- 個人だけではなく、グループとして機能できたかどうか  
理解の齟齬が生じたら連帯責任！

## 理論的視点から

では、この活動が英語教育におけるどんな理論と結びついていくのか。実施に先立って、主催の佐伯さん、島本さんとお話をさせていただいた際、「Collaborative learning の考え方には結びつくんじゃない？」といったアドバイスをいただきました。（ありがとうございました！！）

Collaborative learning とは、他との「共同学習」の中で、自分の役割を果たしながら、チーム全体としてのゴールを目指していく学習形態のことです。

この形で、学びを充実させるためのポイントは5つ。

### ① 積極的な相互依存

お互いを信頼し合い、積極的に関わっているかどうか。

### ② 直接的開け合い

きちんと面と向かって「話し合い」ができているかどうか。

### ③ 自分と集団の目標に対する説明責任

個人として、そしてチームとして、どこを目指して何をするべきなのか、それを相手任せにせず、きちんと自覚しているかどうか。

### ④ 集団行動

集団で何かを行う際に適切な態度を取れているかどうか。

### ⑤ グループの進捗状況の把握

グループの進捗状況は、メンバー全員で共有しあえているかどうか。

何をおいてもまず念頭に置いておかなければならないことは、「一人ではない」ことを自覚するということ。自分を発信し、相手を受け入れるという、コミュニケーションの根幹を養っていくことが肝ではないかなと思います。

## 終わりに

今回は、共同学習を取り入れた写真描写アクティビティということで、Pictation を提案させていただきました。理論的背景知識も何もないまま完全オリジナルで展開させていただきましたが、参加者の方々には主旨をご理解いただけて、また前向きな感想もいただくことができました！まだ修正の余地は残りますが、これで一つの形にはなったかなと思いました。私自身ここからまたさらに場数を踏んで、より実用的で学習効果の高い活動を現場に取り入れ、生徒たちと一緒に成長していくよう精進して参りたいと思います！！！